

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道158号 砂山拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	福井県
起終点	起点：福井県大野市清瀧 終点：福井県大野市鉦掛	延長	L = 0.9 km		
事業概要	<p>一般国道158号は、福井県福井市を起点とし長野県松本市に至る延長約253kmの幹線道路である。砂山拡幅は、ボトルネックとなっている砂山トンネル前後の交通混雑と事故多発地点の解消を図り、安全で円滑な交通の確保を目的とした福井県大野市清瀧から同市鉦掛に至る延長0.9kmの4車線道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>国道158号は、福井県と中部圏を結ぶ広域幹線道路で、産業および観光道路としての機能を有するほか、大野市中心部と県都福井市を連絡し、地域間の連携を図る上で重要な道路である。 昭和45年の都市計画決定以来、計画的にバイパスの4車線化が図られてきたが、砂山トンネル前後は未整備区間として残されている。このボトルネックにより特に朝夕のラッシュ時には交通混雑が著しく、交通事故が多発しているため、4車線化による安全で円滑な交通の確保が急務となっている。</p>				
全体事業費	16億円	計画交通量	11,081台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
大野市長を会長とする国道158号改修促進期成同盟会から要望を受けている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：都市計画決定済み（昭和45年9月）
円滑な事業執行環境：過年度の事業により、必要用地の大部分が取得済みである

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.8	総費用：16億円 （事業費：14億円 維持管理費：2億円）	総便益：44億円 （走行時間短縮便益：44億円 走行費用減少便益：0億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.1（交通量 10%）	B/C=2.5（交通量 -10%）		
		事業費変動	B/C=3.1（事業費 -10%）	B/C=2.6（事業費 10%）		
	事業期間変動	B/C=2.8（事業期間 -1年）	B/C=2.8（事業期間 +1年）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		<p>【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約20.4千人時間/年・km（県内上位2割に相当） 福井県平均：約10.6千人時間/年・km 全国平均：約20.3千人時間/年・km 【その他の特徴】当該計画区間で4車線道路が2車線に絞られていることによるボトルネックから、その前後で渋滞が発生。前後の交差点間の通過所要時間6分 3分に短縮 データは県内平均・全国平均と比較すること</p>		
		事故対策		<p>【死傷事故率】約113.6件/億台km（県内平均比：1.9） 福井県平均：約61.1件/億台km 全国平均：約105.6件/億台km 【その他の特徴】H12～H16の交通事故数：54件（うち人身事故12件） 直近ではH18.7.28に死亡事故発生 データは県内平均・全国平均と比較すること</p>		
		歩行空間		計画区間は通学路に指定されており、歩行者・自転車の安全が確保される		
	社会全体への影響	住民生活		大野市から福井市中心部への通勤交通の円滑化が図られる。 三次医療施設である福井県立病院への時間短縮に寄与する（3分短縮）		
		地域経済		大野市から福井市へのアクセスが改善され、農作物等の出荷量の増加が見込まれる		
		災害		緊急輸送道路（一次）の機能強化が図られる		
環境			4車線化により交通混雑が解消され、大気汚染物質の排出低減化が図られる			
	地域社会		大野市の観光地（九頭竜湖、スキー場、大野城等：入込客数（年間140万人））へのアクセスが改善され、観光面での振興が図られる			
事業実施環境			福井県道路整備プログラム（H16.3）への位置付けがなされている			

採択の理由

費用便益費が2.8と、便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
交通混雑の緩和や交通事故の低減、産業・観光振興が図られるなど、事業の効果は高いと判断される。
以上より本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。